

令和4年7月15日

7月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県の原木生産は順調。入荷は虫害時期なので若干減少した。共販所では一部で材の引取が遅れ、土場を圧迫している。スギ 3m柱材はここに来て17,000円台に乗ってきた。中目材は14,000円から16,000円の間で動いている。ヒノキ 3m柱材は22,000円台、4m中目材の曲がり材、低質材の販売に苦勞している。

群馬でも出材は国有林、民有林ともに順調。カラマツ原木の値上げが止まらず、4m中目材で27,000円。引き合いは全般的にやや減少したが、プレカット工場への納材は相変わらず順調。スギ・ヒノキ正角、スギ平角の受注が多い。製品在庫の不足傾向は変わらない。製品価格は高値安定で以前の最高値に戻りつつある。

2. 米材

産地では米国内の原木価格は高原状態で横ばい推移。カナダBC州では立木価格の高騰と州政府による伐採制限で原木供給が限定的である一方、米国向け製材品生産が好調なため原木需給が逼迫している。米国、カナダとも山火事警戒レベルは上がっておらず、伐採は平常通りに行われている。米国の港湾在庫は積み上げまでには至っていないが、輸出用原木が不足する環境にはない。米マツ IS 級並の7月積み対日輸出価格(推定)は円安急進を背景に前月より\$30下げの\$1,300/千SCRで決着した模様。北米製材品市況は下落していたが、底値との見方から回復している。ランダムレングス紙発表の15種平均価格(7/5)は\$604/M。SPF サプライヤーは製品輸送が制約され、減産調整を継続している。米国西岸港湾の現労使協定が7/1で期限を迎えたが、労使双方でスライキ/ロックアウトに入ることはないとの声明が出されており、港湾荷役は平常通りである。

5月原木入荷は249千 m^3 で今年最高、1~5月累計では1,006千 m^3 (前年同期比2.3%減)、カナダからの入荷は前年比0.6%減とほぼ前年並み。出荷は235千 m^3 となり入荷同様に今年最高、1~5月累計は958千 m^3 (同5.3%減)、在庫は増加し164千 m^3 となり、在庫率は0.90ヵ月と1ヵ月割れが継続。東京木材埠頭の6月製品入荷は21千 m^3 (前月比80.1%増)、出荷は17千 m^3 (同14.7%減)、在庫は54千 m^3 (同7.6%増)。国内最大手製材工場では、受注が落ち込ん

でいるため、米マツ製品に設けられていた制限枠を解除した。

3. 南洋材

サラワク州では6月に入っても天候不良が続き、地域により伐採量が異なり、在庫のある所とない所がはっきりしている、PNGでは乾期に入っているが、降雨に見舞われて原木生産量は伸びていない。サバ州では日本商社数社が契約締結に向けて交渉していたが、7月の配船には間に合わない模様。フリー板のマーケットは依然として悪いが、現地価格は高止まり。円安が大きく響き、採算は急激に悪化している。7月予想の原木入荷は13千 m^3 、出荷は8千 m^3 、在庫8千 m^3 。製材品入荷は30千 m^3 。

4. 北洋材

日本側の市況悪化と荷動きの低下で産地側も価格軟化の局面に入った。クライナ侵攻で取引を控えているバイヤーもいるため、どの現地シッパーも交渉は棚上げ中。アカマツ原板は原木不足で交渉は進んでおらず、次の本格交渉は秋口からと見られる。シッパーはアカマツ完成品の出荷を急ぎたい意向であるが、仕入れを見合わせているバイヤーもいるため、交渉は進んでいない。6月に東京木材埠頭に現地挽き完成品の入荷が増えたことで、一気に警戒感が膨らんだ。ウラジオストクに滞留していた貨物が6月、7月に一気に入荷すると予想される。国産完成品はDIY/流通ともに引き合いが減少し、荷動きは急速に悪化している。5月の製品入荷(東京+川崎)は15千 m^3 で4月並み、出荷は17千 m^3 と大きく鈍化、在庫は42千 m^3 と4月とほぼ変わらず。6月は入荷、在庫とも大幅に増加する見込みである。

5. 合板

合板用原木のスギは安定してきたが、米マツや国産カラマツは依然不足がち。国産材は高止まり、米マツは値上がりが続いており、今後の山火事や為替の動向が懸念材料になっている。

5月の国内合板生産量は24.0万 m^3 、うち針葉樹合板は23.6万 m^3 、出荷量は24.1万 m^3 で在庫量は9.8万 m^3 、うち構用合板の在庫は7.7万 m^3 、在庫率0.3ヵ月とかなりの低水準が続く。針葉樹合板の需給の逼迫感が漸く緩和され始めたところに西日本の合板工場の火災が6月中旬に発生し、長尺合板を中心に再び不足感が強まりそうな情勢である。輸入合板では針葉樹合板の品薄感がなくなったことで引き合いが弱くなっている。5月の合板輸入量は24.6万 m^3 (前月比1.8%増)で主要国からの輸入量は概ね減少しているが、中国産が増加しており、針葉樹合板が19千 m^3 (12mm換算95万枚)となっている。イン

ドネシアでは天候不順による原木不足が続いており、合板メーカーの稼働率は低下している。日本市場は円安、在庫過多により新規の引き合いは少なく、高値を唱えるシッパーと値下げを唱えるバイヤー間のにらみ合いが続いている。マレーシアでは日本からの引き合いは旺盛で各工場はフル生産体制であるが、原料と労働力の調達に苦慮しており、合板生産量の頭打ちの状態が続いている。

6. 構造用集成材

コンテナ船の動きが一時期と比べ安定しており、今年第1・四半期契約分が入荷している。第2・四半期契約価格は欧州での需要増加により€100程度の値上げとなり€570~600/m³程度。7月以降から夏にかけて入港する。急激な円安ユーロ高で輸入コストは上昇し、港着90,000円/m³以上となる。国内需要の落ち着きを考慮したとしても、価格は現状から大きく変化することはない。輸入集成材の国内流通価格は145,000円/m³周辺。国内集成材メーカーのRW、WW集成材の受注は例年に比べ減少基調にある。

7. 木材チップ(東海)

チップ原木は製紙・バイオマス用とも引き合いは強い。高値材も多少無理して購入している。解体材は発生、入荷ともに例年並みだが、大手のボイラーの定期修理のため切迫感はない。ただし下期以降の集荷には警戒感が強い。製紙用は定期修理により一時的に使用量は減少しているが、針葉樹チップの増集荷基調は継続。燃料用の消費は一服感があるが、例年に比べ余剰感は少ない。国内チップ工場の在庫は総じて少ない。

8. 市売問屋

国産材、外材とも荷動きが悪く、様子見になっている。6月の記念市も静かであった。国産材KD材は高値横ばい状態。羽柄材も不足感がなくなってきた。材の不足感と値上がりムードがなくなっているため、材木店も落ち着いている。木材市況を牽引する材が見当たらなくなっている。

9. 小売

住設機器の納期遅れが続き、工程が思うように進まない現場が多い。全体的に供給は回復したが、今度は荷動きに勢いがなく、在庫が滞留している。スギ製品は特に欠品の物はない。ヒノキ製品は土台角をはじめ弱含み。国内挽き米ツガ製品は依然として入荷が少ない。米マツの一部品目は弱含みで推移。欧州材では間柱に品薄感がある。WW集成材は品薄が払拭され、価格は高値横ばい。ロシア材は国内需要が停滞しており、価格は高値保合。外壁下地材に使用する長尺合板の供給量が懸念されている。

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	→	↘	↗
北洋材	丸太	輸出禁止	*	*
	製材品	↘	→	↗
南洋材	丸太	↘	↘	→
	製材品	→		

注)北洋製材品は東京・川崎

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
↘	→	→	→

3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材 (3m) 2等	→
			スギ中丸太 (3.65m) 2等	↘
			ヒノキ柱材 (3m) 2等	↘
			ヒノキ中丸太 (4m) 2等	↘
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱 (KD) 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ 3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角 12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	→
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	↗
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角 (KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			SPF 2×4 J-Grade R/L	→
			米ヒバ土台角 (GR) Std&Btr 4・13/16” 13’	→
米マツ平角 (KD) 特等 10.5×24.0×4m	→			
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	→
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用	→
	製材品	産地価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→
		東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトセラヤ 平割 (サバ州産)	↗
同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	↗			
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ (KD) 30×40上級	↘
			アカマツ (KD) 16×40上級	↘
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 3.0×10.5×3m S4S FOHC	→
			ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	↗
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	→
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	→
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	→
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	→
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
			型枠 12.0mm厚 3×6	↗
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	↗